日刊 動労千葉
86. 10. 30
No. 2394
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

斗2波強力順法——10.27~29

当局の〝乗務停止〟はねのけ順法斗争貫徹

いまこそ国鉄労働運動の命運をかけ決起せよ

動労千葉は、十月二十～二二日の第一波強力順法闘争にひき続き、二七～二九日の三日間、「分割・民営化阻止、十一月ダイ改阻止、運転保安確立」をかかげて第二波強力順法闘争に突入した。二波ストでの支部役員の解雇・停職攻撃、「人材活用センター」への配転攻撃で役員、活動家がハンドル、ハンマーを奪いとられるもとで、第一波順法は七人の「乗務停止」検修職場の四人を仕事からはずす、などの凶暴な順法闘争圧殺攻撃をはねのけ、全組合員によって闘いは切りひらかれ、二波順法はその重圧にもひるまず三日間断固闘いぬかれた。

「十一月ダイ改」大合理化・団交、運転保安無視へ怒りの反撃

「十一月ダイ改」大合理化を、団交や運転保安を無視して一方的に強行しようとする国鉄当局に対する怒りの順法闘争に対し、当局は選別的な報復処分攻撃をかけることによって闘争圧殺し、組織の団結を崩すことに奔走してきたのだ。

動労千葉組合員の乗務する列車にストップウオッチをもった白腕・職制の二人が乗りこみ、運転士に「乗務停止」の恫喝をふりかざし、順法闘争圧殺に血まなこになったにもかかわらず強力順法は貫徹された。大反撃をくった当局は報復処分として津田沼支部三人、千葉転支部二人、銚子支部二人の「乗務停止」処分は、組合員の怒りを増すものとしてしかなかった。

本線乗務の仲間の闘いとともに、習志野電車区、幕張電車区の検査・検修の地上勤務者の職場での順法闘争がかちとられた。当局は、習志野電車区の検修の四人の仲間に対し、仕事からはずす攻撃をかけてきた。だが、横暴な攻撃は怒りをひきだし、連日、検修庫の中で国労組合員とともに闘いぬかれたのだ。

横暴きわまりない攻撃に、直ちに各職場で怒りの当局追及行動がもたれた。

この怒りをもって、一〇・三〇清水谷から国会デモに決起せよ。

斗2波強力順法闘争に突入…1/2ページ

千葉動労、また順法闘争

【千葉】千葉動労（中野洋委員長、九百六十人）は、国鉄の分割・民営化と十一月のダイヤ改正に伴う人員合理化に反対して、二十七日始発から総武、内、外房線など千葉県内九線区で安全確認などの〝順法闘争〟に入った。

二十九日まで三日間の予定で、いずれも正午まで。この影響で二十七日は始発から午前九時までに総武線四本が運休したほか、上下百五十本が十一分～二十分遅れ、九万人の足が乱れた。

総武緩行線に運休など乱れ

千葉動労順法闘争

国鉄の分割・民営化に反対する千葉動労の順法闘争、第二波順法闘争で9万人の足に影響

千葉動力車労組（中野洋委員長、九百六十七人）の第二波順法闘争が二十七日始発から、千葉県内の十線区で始まった。千葉管理局のまとめでは、本運休したのをはじめ、同快速、外房線など上下計二百八十本が十一～二分遅れ、約十二万人

2面へ19ページ

約250本に遅れ

千葉動労順法闘争で

千葉動労の順法闘争で二十八日、県内の国鉄各線は総武線快速と普通電車を中心に始発から午前九時までに上下計二百四十七本が八～二二分遅

2面へ19ページ

乗客9万人に影響

千葉動労順法闘争は

日に続いて二十九日始発も

3面へ19ページ